

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名 Dodi Widiyanto

論 文 題 目

Geographical Study on Local Food Activities in Indonesia

(インドネシアにおけるローカルフード活動の地理学的研究)

論文審査担当者

主 査 名古屋大学大学院環境学研究科 教授 高橋 誠

副 査 名古屋大学大学院環境学研究科 教授 立川 雅司

副 査 名古屋大学大学院環境学研究科 准教授 伊賀 聖屋

論文審査の結果の要旨

日本を含む先進諸国では食料供給体系の過度なグローバル化に対する反省からローカルフードが再注目されているが、新興国インドネシアでも、近年、食料生産・消費の多角化を推進し、穀物輸入を減らすとともに国内農業を活性化するためにローカルフード奨励政策がとられてきた。本論文は、こうした状況にあるインドネシアにおいてローカルフードにかかわる活動がどのような社会的意味を持つかという問題を、生産地域の地理的パターンに関する量的分析と、コミュニティにおける生産・販売活動に関する質的分析から論じたものである。

本論文は全 6 章から構成される。第 1 章では、先行研究をレビューした上で、インドネシアにおける近年の食料消費の量的動向と政府の食料政策を踏まえて研究課題を提示し、研究目的と研究方法、調査対象地であるジョグジャカルタ特別州の概要を述べている。第 2 章では、根菜類をローカルフードとして操作的に定義した上で、生産量や作付面積から算出したローカルフード指数と農業・生態ゾーン (agro-ecology zone) を地図化し、生産の盛んな地域が自然条件上の栽培適地から外れる傾向を見だし、その背景に、商品価値の高い米を重視する農民の合理的な作物選択行動があることを指摘した。第 3 章では、ローカルフード生産と、貧困や食料不足といった剥奪問題 (deprivation) との関係性を、GIS を用いて分析し、剥奪問題の解決に資するような商業的生産が促されない要因を、交通インフラや技術的・財政的支援の欠如などから明らかにした。第 4 章では、農村の生産現場における農家女性グループの活動を対象に参与観察と言説分析をおこない、ローカルフードの生産が農家の重要な副業になりつつあるものの、伝統的な性別役割分業を背景に、その生産活動が女性の役割とされ、農村経済の中で残余とされたことが商品開発を阻害したと指摘した。第 5 章では、都市のファーマーズマーケットを対象に参与観察と言説分析をおこない、健康志向の都市中間層の需要の高まりによってローカルフードの販売が市場参加者の経済的上昇の機会を提供していると指摘する一方で、ローカルの概念が拡大解釈され、地元起源でない食品に「ローカル」のラベルが貼られる文化的メカニズムを明らかにした。第 6 章では、各章の知見をまとめ、インドネシアにおけるローカルフードの社会的意味を議論するとともに、今後の学術上・政策上の課題を提示している。

本論文は、ローカルフード生産が自然条件から見ると高いポテンシャルを持ち、新しい経済的意味が付与されているにもかかわらず、自給的なものにとどまる社会的要因を実証的に明らかにした点で学術的に重要である。とりわけ生産・販売の現場で見られる社会的・文化的矛盾は先進諸国と共通する現象であり、類似の研究がほとんど見られない新興国の状況に関して、本論文の指摘は大変貴重である。

よって、本論文の提出者 Dodi Widiyanto 氏は、博士 (地理学) の学位を授与するにふさわしいと判断した。